

## 郷鉄工所（破産）大口債権者・朝倉応水（株式会社充雲）が、郷鉄工に送り込んだ2人のブレーン（西浜大二郎・小澤政太郎）と繰り広げた上場企業乗っ取り劇！

現在、破産手続き中の郷鉄工所は、昨年8月の東証2部上場廃止決定直後に破産申請を行い、1年が経過している。

郷鉄工が破産に至るまでの過去数年間は、急激な財政状態の悪化による会社破綻の懸念が度々指摘されていた。

主な原因は、取締役に入り込んだ石川歩が、太陽光事業等で犯罪的な手法を用い、会社財産を食い散らかした背任行為に起因している。

その後、ピンチに陥った会社の資金繰りで暗躍した松尾隆が、ありえないほどの法外な金利や手数料名目で、損害を拡大させたことが致命傷となり、倒産に至った。

### 朝倉が送り込んだ2人のブレーン

そんな中、大口債権者である朝倉応水（株式会社充雲）は、自分が郷鉄工に出したカネをいち早く保全するために、郷鉄工社内に息のかかったブレーンを社員やコンサルタントという立場で送り込んでいた。

今回の調査では、少なくとも2人の人物が、朝倉サイドとして郷鉄工社内に入り込み、他の債権者や郷鉄工自体よりも、朝倉の利益を最優先に郷鉄工の経営に関与したのではないか？という疑惑が判明した。

当時の郷鉄工は、上場企業である。大口とはいえ、一債権者にすぎない朝倉が、他の債権者や郷鉄工本社、何より株主達を差し置いて、自己の利益のために会社経営の中枢に携わっていたとしたら、不公平・不公正である。当然、上場企業のマネジメントとして適切なはずがない。

ちなみに、郷鉄工に送り込まれたのは、小澤政太郎と西浜大二郎という2人の人物である。この2人の郷鉄工内での関係は、朝倉の命を受けた西浜が経営判断に介入し、郷鉄工の決済処理判断は、西浜が事実上取り上げ、小澤に支払い処理をさせていたという関係にある。

## 西浜大二郎

(アウン・キャピタル・マネジメント株式会社 代表取締役)

西浜大二郎は、朝倉が郷鉄工に送り込んだコンサルタントである。金融事業が専門のようであるが、末期の郷鉄工のような会社に朝倉の指示で入り込み、今回のような会社乗っ取り劇で、上場企業のコンプラ上、極めて問題のある行為を率先して指揮するくらいである。むしろ、事件屋と呼ぶ方が相応しいだろう。

西浜が代表を務める上記会社の商号には、片仮名で「アウン」という表記があるが、朝倉の会社「充雲 (あうん)」との関係性は不明である。

## 小澤政太郎

(公認会計士・株式会社スプレッド 代表取締役・ハジメタロウ株式会社 超チーフプロデューサー)

小澤は、公認会計士で投資の著書もあり、上場企業内部でのIPOにも携わった経験もある人物のようだ。他にも郷鉄工のような、企業統治がいいかげんな上場企業のいざこざで名前が出ているようである。関係者によると、小澤は、朝倉のことはよく知らないようであるが、今回、郷鉄工に送り込まれたのは、これまでの経験や専門知識が買われてのことだろう。

## 朝倉に言いなりの林社長は、ついに郷鉄工 (上場企業) の経理専用P

### Cを明け渡した!

小澤が、西浜のラインから入ったのか知らないが、大口債権者であった朝倉の立場で動いていたことは明らかだ。郷鉄工の林社長は、とても上場企業の経営者とは思えないふがいなさで、いつも大口債権者・朝倉の言いなりのようであったが、ついには、経理のネットバンキング用のパソコンまで朝倉に渡してしまったという。

繰り返すが、あくまでも朝倉は一債権者であり、会社内部の人間ではない。上場企業の企業統治・コンプライアンス上も絶対に許されないことをしたのである。

この瞬間、東証2部上場企業・郷鉄工所は、会社中枢の経理業務を、会社外部 (朝倉) に事実上明け渡し、決裁権をも握った朝倉は、息のかかった西浜大二郎を会社に送り込み、朝倉サイドで決済を行わせたという。実際の経理処理は、取り上げたネットバンキング用PCを小澤に管理させ、小澤は、西浜の決済指示を仰ぎながら、経理処理を行っていたというから、とんでもないことである。

## 一債権者にすぎない朝倉が、郷鉄工（上場企業）を乗っ取った瞬間！

これが、一債権者にすぎない朝倉が、上場企業・郷鉄工所を乗っ取った瞬間である。小澤にしても、普通の事務員とは違い、高度な専門家である公認会計士の有資格者である。小澤は、このような行為が上場企業のコンプラ上ありえないということは、重々承知していたはずである。

よって、小澤も知らなかったというのは、全く通用せず、むしろ、専門的知識を一債権者のためだけに悪用した確信犯としか思えない。専門知識を利用し、何をやっても良いということは認められない。小澤自身の公認会計士としての見識にも重大な問題がある。

## 朝倉を郷鉄工に引き入れたのは、大物事件師・松尾隆

表題の通りであるが、そもそも、朝倉を郷鉄工に引き入れたのは、今回の郷鉄工破産の戦犯と名高い、大物事件師・松尾隆である。松尾は、上場企業の犯罪ではよく名前が出る前科者の犯罪者である。自分の悪名を表に出せないから、複数の偽名で名刺を作るような男である。そして、実際の取引になると、息子・田中晶雄の会社を利用する。息子の田中晶雄は、公認会計士の有資格者であるが、上記の小澤にしろ、松尾の息子にしろ、職業専門家としての見識が一体どうなっているのか？こういう連中が、日本の資本市場を歪める現状は、とても恐ろしい。

## 朝倉の乗っ取り！大荒れした郷鉄工社内！

こんなことから、その後、当然、郷鉄工社内は大荒れになったようだ！松尾から派生した朝倉一派と、乗っ取り後の罵倒飛び交う社内の大荒れ劇の詳細は、次回に！

## 資料を送ります

### ◆ 登記簿謄本

- 1 アウン・キャピタル・マネジメント株式会社（代表・西浜大二郎）
- 2 株式会社スプレッド（代表・小澤政太郎）
- 3 ハジメタロウ株式会社（代表・岡崎五月）

※ 小澤の親族と思われる人物が2名役員になっている。この会社での小澤政太郎の肩書きは、「超チーフプロデューサー」

### ◆ 西浜大二郎・小澤政太郎の名刺